

飯館中学校の生徒さんが上智大学を訪れました！

8月に本学学生29名が福島県飯館中学校を訪問し、学習支援や部活動支援を行いました。このたび、8月に交流をした飯館中学校の3年生9名と教育委員会の方を含む引率の先生方が、10月22日(土)に本学を訪れました。日帰りの忙しい日程ではありませんでしたが、理工学部物質生命理工学科・神澤 信行先生(学生センター長)による『大学の生命学』をテーマにした体験授業や、キャンパスツアー、本学学生によるキャンパスライフ紹介、そして俳句作りなど、様々な形で交流が行われました。

どの企画も中学生の皆さんに楽しんで頂き、素敵な時間を共にすることが出来ました。ここで、本企画にありました、「俳句作り」の一部を紹介いたします。大学生と中学生を交えた三班に分かれ、「飯館」をテーマに各々の想いを俳句に表していただきました。



心理学科4年・山本 祐喜子さん

受験勉強や進路など、等身大の中学3年生の気持ちや、故郷の自然を懐かしむ気持ち、今後離れ離れになってしまう悲しみを詠んだ俳句を沢山書いてくれました。これらの俳句からにじみで、彼らの故郷を強く思う気持ちは、今後の飯館村の復興への大きな力になると思います。

離れても 離れられない 我が故郷

村からは離れても、心はまだ離れられないという複雑な心情を詠んでくれた一句です。故郷を思う気持ちが強く伝わってきました。

夏休み 遊ぶことなく 野菜とり

遊びたかったのに(あれ？勉強は?)お父さんの仕事の手伝いで夏休みが終わってしまったという、遊び盛りの中3男子の気持ちを読んだものです。少しスッとさせてもらった一句でした。



経済学科3年・山田 凌大さん

普段の日常に関わる俳句が多かったのですが、その中にはふるさとの飯館村を思う気持ちや、飯館中の仲間との強い絆を感じさせる内容が込められていました。未来の飯館村を担う存在として、彼らの心の中に希望を見出すことができました。

こんだてを 見ながら思う いいたてを

ふるさと学習の一環として出される給食のメニューから連想した、自分たちの故郷を偲ぶ一句です。

後輩の ふるうすがたに はげませ

辛い受験勉強でくじけそうになったとき、部活に励む後輩の姿を見て頑張ろうという気持ちになれる、飯館中の心の繋がりを垣間見ることができます。



社会福祉学科1年・細井 愛未さん


中学生の俳句には、「ふるさと」への強い気持ちが感じられました。また、「避難生活」というフレーズが入っていたことが印象的でした。彼らの心の中には、自分の村に帰れず避難をしているという気持ちがあるのだと感じられ、彼らのふるさとを思う気持ちに感動を受けました。

ふるさとを 知れば知るほど 好きになる

自分の村について考えたことはあまりなかったが、学校などで飯館について学ぶうちに、良いところや好きなところが見つかったという一句です。

飯館を 心にとどめて 避難生活

今は飯館から離れて避難生活をしているが、飯館のことや飯館で過ごしたことを忘れないように過ごそうとしていることが感じられました。



各班リーダー3名の感想と、飯館中学校の生徒さんが作った俳句の一部を紹介します！

上智大学ボランティア・ビューロー(ボランチ)

場所: 2号館1階 学生センター⑧窓口

Mail: volunteer@cl.sophia.ac.jp

twitter: @SophiaVolante